

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000414
法人名	有限会社 土香里
事業所名	グループホーム 土香里
所在地	愛媛県伊予市大平字片山甲225-1
自己評価作成日	平成28年7月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>明日という日が楽しみになるような毎日が過ごせるように、できる事やりたい事を見つけるように支援している。職員も楽しんで仕事ができるようにそれぞれの役割を持ってもらい責任とプライドを持って仕事ができるように支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>居室の入り口にかけてある表札は、法人代表者が入居した時期の季節の花や思い出の地のイラストを描き、手作りしている。入居当初、落ち着かない方の家族と相談し、ご主人の遺影と仏壇を持ち込んでもらい、毎日水やお花を供え手をあわせられるよう支援することで、じょじょに落ち着かれた方がいる。得意な手芸やぬり絵の作品を飾ったり、好きな演歌歌手のポスターを見ながらCDを聞いて楽しむ方がいる。日めくりを毎日めくりたり、壁掛けカレンダーに今日の日付が分かるよう職員に目印を付けてもらい、出来事を日記風に記入している方がいる。</p> <p>運営推進会議時の報告で家族が職員不足の実情を知り、家族主催のレクリエーションを催してくれたり、毎日訪問して散歩に連れ出してくれるようなケースがある。居室に「連絡ノート」を置いて、家族と職員がやり取りをしている。日頃の感謝の言葉や行事の感想、靴の買い替え等についての記載があった。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム・土香里

(ユニット名) 木の果

記入者(管理者)

氏名 井上真喜子

評価完了日 平成 28年 7月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) カンファの時には、いつも理念を復唱し、確認して共有することで実践につなげている。 (外部評価) 事業所理念の「笑心(えがお)の探求 全ての人がしあわせになるため、私たちは居り、ここは在る。」にそって、毎年皆で話し合い、今年目標を立て理念の実践に取り組んでいる。今年目標「想像力と創造力を持つ！」は、職員の個人目標とともに運営推進会議でも発表した。事業所理念は玄関正面のよく見えるところに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会に参加し、地域の行事にも参加している。地域の方も度々ホームに来ていただいている。野菜などをたくさんいただいたり、ホームの畑の心配をしてくれたりありがたい。 (外部評価) 法人代表者は、毎月の地区の常会や交通安全委員として地域活動に参加、協力している。地域の高齢者やその家族からの介護相談を受けることもある。5月には、毎年、地域の方や家族を招待して「ほたる祭り」を行っており、楽しく交流できる機会を作っている。地域の小学校や保育園からは、定期的に訪問があり、利用者を楽しませてくれている。運営推進会議時、民生委員の方に教えてもらった伊予市総合保健福祉センターでの「ぼかりんサロン」に出かけて、地域の方達と昼食を楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで情報を発信している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出された意見や聞きたい事、知りたい事などを職員同士で話し合ったり、次回の議題に取り上げている。	家族個別に会議の目的や意義等を説明しながら、協力を得られるよう働きかけを繰り返し行ってほしい。事業所サービスを実際に利用している側からの意見や感想等を多く聞けるように、今後も取り組みを工夫してしてほしい。
			(外部評価) 会議は地区の集会所で行っており、利用者や家族、地域の方のほかに、介護、医療関係者等、多数の参加がある。参加者が知り合いを誘って来ることもある。パワーポイントで活動報告や利用者の暮らしぶり、又、事業所の取り組みを報告して意見交換を行っている。家族参加は、以前より減少傾向にあり、2～3名程度同じ顔ぶれになることを課題に感じており、日時についてアンケートを行い調整を試みたが、参加増にはつながらなかったようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に、伊予市の担当者に参加していただき、意見交換・相談などしている。	数年前から伊予市内のグループホームの管理者が集まり「交流会」を行っている。今年は事業所が中心となり、ボランティア団体とも協力して地域のサロン活動をすすめていくことを計画しており、取り組み内容を愛媛県地域密着型サービス協会合同研修会の「チャレンジ」に応募することを予定している。
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会を設けている。年に1回は勉強会を行い理解に努めている。夜間以外は玄関の施錠はせず、自由に出入りできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止委員会を設けている。年に1回は勉強会を行い理解に努めている。夜間以外は玄関の施錠はせず、自由に出入りできている。	年に1度は、虐待や身体拘束の勉強会を行い、職員間で理解を深めている。訪問者や利用者が自由に出入りできるように、玄関を開放しており、各ユニットの入口にはドアベルを付けて出入りが音で分かるようにしている。「利用者の自由な暮らし」を大切にした支援に取り組んでおり、場合によっては家族にリスクが伴うことを説明する場合もある。車椅子を自走できる方は、居間や居室を自由に動けるよう見守っている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を行い、虐待の防止を心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的に勉強会を行い、理解しているがなかなか支援する機会がない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族とは十分に話し合いをして理解・納得をしていただいていると思うが、本人と話し合えない場合が多い。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議で意見や要望を聞き、反映できるように努力している。	
			(外部評価) 「とかり通信」を2ヶ月毎に発行して、事業所の取り組みや行事の様子を報告している。又、毎月の送付書類に手紙を同封し、利用者個々の心身の状態や暮らしぶりを報告している。運営推進会議時の報告で家族が職員不足の実情を知り、家族主催のレクリエーションを催してくれたり、毎日訪問して散歩に連れ出してくれるようなケースがある。居室に「連絡ノート」を置いて、家族と職員がやり取りをしている。日頃の感謝の言葉や行事の感想、靴の買い替え等についての記載があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員の意見は可能な限り聞いている。	
			(外部評価)	
			毎月のカンファレンスの前時間に行う勉強会は、職員が順番に講師役になり、テーマを決め資料も用意して行っている。1年前より、接遇やケア改善に向けての「スタッフチェックシート」の仕組みを作っている。利用者や家族、近所の方等にも「できているかどうか」毎月チェックをしてもらい、3ヶ月毎に評価を行っている。成果として、取り組みが失禁回数の減少につながったケースがある。又、職員が挨拶を行うことの意識付けにもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			基本給は一定だが、処遇手当で職員の努力や実績を評価している。職員のやりがいにつながっているかはわからない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修などの機会は与えているが休みを利用していかなければならず、参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			職員全体には出来ていないが今年は相互研修に参加する。管理者は伊予市内の管理者と定期的に交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			担当職員をはじめ、其々の職員が、時間をかけて本人に要望を聞いているがなかなか本音を聞き出すことは難しい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当職員をはじめ、其々の職員が、時間をかけて家族に要望を聞いている。世間話もまじえながら何でも言いやすい関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず必要としている支援を見極める努力はしているが、他のサービス利用はあまり行っておらず。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 少しでも多く接する時間を設けるように心がけ、信頼関係づくりを大切にしている。また、本人に職員が教わるという機会を多く取り入れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診や往診時に職員が付き添い、家族にも同行同席をお願いしている。イベント参加も促し、本人が家族と過ごす時間が少しでも持てるように努力している。また、家族と職員の交換日記も活用している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 近所の人にも連絡を取り、遊びに来ていただけるように声掛けしている。イベントのお誘いもしている。しかし、なかなか難しい。 (外部評価) 事業所の近くにある自宅の井戸の水を毎日汲みに行き、飲むよう支援しているケースがある。絵を描くことが好きな方には、姉妹に絵手紙を出せるようサポートしている。誕生会は、本人が年に一度主役になれる大切な日と捉え、家族と日時を相談して皆で祝えるよう支援している。家族と一緒に県外に住む姉妹に会いに行く予定がある方について、普段より健康状態に注意し、歩行練習も多めに行い準備の手伝いをした。家族には薬や排泄について説明し、安心して旅行を楽しめるよう支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他ユニットの人とも、日頃から行き来している。リビングの片隅に机を置いたり廊下にコーナーをつくったり、少人数でも集える場所を提供している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もイベントの案内を送ったりしているが、相談されるケースは今のところ無い。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の思いや要望の把握、状況の共有に努めている。今以上に興味を持って、日常の会話の中でヒントを探しだし、本人の希望を把握できるようにしていきたい。 (外部評価) センター方式の様式を一部採り入れた事業所独自のアセスメントシートを用いて、利用者個々の意向の把握に努めている。生活歴、暮らしの様子をはじめ、歩行、睡眠、心身等の項目ごとに1ページにまとめ、追記式で情報を蓄積している。利用者によっては家族に昔のアルバムを持ってきてもらい、新たな一面を発見したり、知人に会いに行ききっかけになっている。調査訪問時、耳の悪い方と筆談用のノートを使ってコミュニケーションをとる様子が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族との会話を増やすことによって、新たに知ることも多く、また、地図や家族に持ってきていただいた過去のアルバムを用いて、コミュニケーションを図る中で、更に本人自身を把握できるよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の思いを大切にしながら日頃の様子を注意観察し、記録に残すことによって共有や把握に努めるようにしている。但し、記録によって、本人の能力を決めつけてしまわないよう留意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ケアプランを作成する際には、本人と家族に希望・要望を聞き、それを基にスタッフで話し合い、楽しめるような介護計画になるよう取り組んでいる。また、各居室に置いてある、家族と職員の交換日記も介護計画の参考にしている。	
			(外部評価)	
			新しく入居した利用者から順に気づきシートを作成し、日々の支援に活かしている。介護計画は、本人や家族に暮らしの意向を聞き取った後、担当職員を中心に皆で話し合い、その人らしく楽しんでできることを目標に挙げて作成している。計画の支援内容を介護記録に転記し、毎日モニタリングを行い、3ヶ月毎の計画の見直しにつなげている。介護記録には、職員の気づきや発案内容、申し送りの欄も設けて記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			担当職員が中心となって話し合いが行われ、他の職員からも多くの意見が出る。記録による情報の共有は図れているが、日常気付いたことがあれば、職員同士ですぐに話し合うということを大切にしている。	
			(外部評価)	
			外部の訪問マッサージ等を希望に応じて利用できるよう支援している。出来る限り本人の要望に添う努力はしているが、利用者から十分に要望を聞き出せているかわからない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源の把握は出来ていると思うが、十分に活用できてはいない。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 必ず、本人と家族の意見を聞き、受診は家族と職員と同行し医師との信頼関係を築けている。また、往診利用の方は、その時間に合わせて、家族が来てくれる。	
			(外部評価) 入居時、睡眠導入剤等の薬剤を多用している方については、医師と相談しながら「全部やめてみる」「違う薬に変えてみる」等して、利用者の状態や日中の過ごし方を検討しながら総合的に支援している。閉じこもりや歩行困難、食欲不振等の状態が改善された事例が数例ある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護師が、週に1回の訪問と24時間の電話連絡を行っており、気になることがあればいつでも相談にのってくれている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療連携室との連絡を取り相談にのってもらっている。日々、いつでも相談できる関係づくりをしている。入院期間中も職員が頻繁にお見舞いに行き、医師や看護師に様子を聴いている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の在り方を話し合っている。本人の状態や家族の気持ちの移り変わりも考えながら支援している。地域の関係者との連携は出来ていない。	
			(外部評価) 入居時にはすべての方が「ここで最期まで」と希望するが、入退院を繰り返すうち家族の気持ちの変化するような場合もあり、その都度話し合いながら支援している。この1年間で、3名の方を事業所で看取り援した。家族は、好物を持ってきて食べさせたり、手を擦ったり、「そばにいただけでいい」とベッドの側で過ごす方もあった。仲良しの利用者は、話しかけたり手を握ったりして見守った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回の勉強会をしているが、訪問看護師が来られた際に、急変時等の対応など指導していただいている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署に依頼して訓練を行っている。近隣の人にも、お願いしているが、十分とは言えない。	今後も地震想定での避難訓練等、様々な想定で繰り返し訓練を重ね、いざというときに備えてほしい。備蓄や災害用品の準備についても取り組みをすすめてほしい。
			(外部評価) 年2回、消防署立ち会いのもと避難訓練を行っている。事業所の立地する場所が土砂災害危険区域であることから、今年のはじめて土砂災害想定で、実際にシーツや簡易担架を使って避難訓練を行った。事業所裏の住宅の方が地域の消防団に所属していることから、いざという時に協力体制が採れるようお願いしている。事業所に設置しているAEDは、地域の方が必要時に使用してもらえよう伝えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 何度も勉強会を開き、対応に気をつけてはいるが、できていない職員もいる。	
			(外部評価) 職員の気になる言動は職員間で伝えにくいことから、報告を受けた管理者が職員全員のことで皆に話をするようにしている。職員がさりげなく声かけして、利用者個々の得意なことや持っている力を発揮できるような場面を作っている。来客に飲み物を出してもてなしたり、食器洗いや洗濯物たたみをしたりする場面が見られた。身体が前傾する方には、食卓テーブルの側面に沿ってクッションを取り付け、痛みがないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の会話の中でさりげなく出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自立の方は、本人のペースを最優先しているが、職員の都合になっていることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧の声かけをしたり、洋服を一緒に買いに行ったりおしゃれのできるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る人は食事の準備をしたり、片付けをしたりしている。	
			(外部評価) 食事は、利用者の希望を採り入れ、職員が1ヶ月毎交代して献立を立て手作りしている。季節のものを楽しめるように、梅シロップや干し柿、天草でところてん等を手作りしている。昔なつかしい、すいとんやはったい粉を練って食べたいという希望にも応えている。季節の良い時期には、玄関先の駐車スペースで食事をすることもある。母のちらし寿司の味を教わり「作って食べさせたい」と話す息子さんがおり、事業所で味見をしてもらいながら作ってもらうことを提案している。新年には、おせち料理に尾頭鯛や御屠蘇も楽しめるように用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスや形態も考えながら実行している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 出来てはいるが、人によって十分とは言えない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			チェック表を参考に、トイレ誘導を行ったり、トイレで気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価)	
			日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援しており、おむつ等の用品については必要性や適切性について常に見直し、個々の状態に応じた支援を行っている。居間の隅の壁面には「オムツ 使用してみて調整して下さい」と、はり紙がしてあり、利用者個々のサイズを記入していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			ヨーグルト等の利用や繊維の多いものを摂取したり、散歩等なるべく薬に頼らないよう支援している。	
			(外部評価)	
			曜日や時間は一応決めているが、毎日入浴してる方もいたり、夜間入浴をしたり、音楽をかけたり、利用者も職員もお互いに少しでも楽しめるような入浴に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			各ユニットに家庭用のユニットバスがあるが、入浴が難しい場合は1階に設置している機械浴を利用して支援している。入浴を嫌がる方もいるが、無理強いせず、小まめに声かけすることで、数日内に入浴できるよう支援している。	
			(外部評価)	
			睡眠時間、休憩時間は決まっておらず、状況に応じて声掛けをし、個別に居室の温度、明るさ、音楽等によって気持ちよく睡眠できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 暗記するまでには至っていないが、個別に情報を保管しているため、必要時すぐに確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る限りの家事や畑仕事、パンの購入など、気分転換できている。また、就寝前に飲酒を楽しまれる方も居る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力をお願いして、外出をしてもらったり、サロンに行ったり旅行にいったりしている。遠方に旅行される際には、予定日まで職員がいつも以上に体調管理に努めている。	
			(外部評価) 皆での外出は年間計画をたて、初詣や椿さん、ぶどう狩り、季節の花の見物等に出掛けている。毎週木曜日は、希望に応じて「ちょこっと外出」する日にしており、この夏は行列のできるお店で、かき氷を食べたのが好評だったようだ。職員向けに「ボランティアポイントカード」を発行しており、休日の外出支援等に協力すればポイントがもらえて、「スタンプが貯まると素敵なものと交換」という仕組みを作っている。利用者、職員ともに楽しめるような外出に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人に少額のお金を所持してもらい、嗜好品を買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 好きな時間で自由に電話をかけられるよう支援している。また、自分の家族に絵手紙を書いている人もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 小動物を飼ったり、魚やヤドカリを飼ったりしている。季節の花を飾ったりしている。外出から帰ってきたときに、リラックスできるように、玄関には静かにBGMを流している。	
			(外部評価) 玄関前には、朝顔のプランターやメダカの鉢を置き、靴箱の前にはすのこを敷き、椅子に座って靴の着脱ができるようにしている。居間では新聞を読んだり、ぬり絵、計算問題等、好きなことをして過ごしたり、皆で歌詞カードを見ながら「夕焼け小焼け」や「上を向いて歩こう」を歌ったり、体操する様子が見られた。利用者同士で肩たたきをする方もいる。利用者同士の関係性を考慮し、テーブルの配置をしたり、居間から少し離れた場所にテーブルセットを置き、仲の良い利用者同士過ごせるようにしている。本を読むのが好きな方には、居間から少し離れた廊下の端に本コーナーを作り、図書館に行った気分で読書が楽しめるようスペース作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一角に図書コーナーをつくったり、廊下の奥に机といすを置いたりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談して仏壇を置いたり、畳を敷いてちゃぶ台を置いたり、壁には大好きな歌手のポスターを一面に貼ったり、自由に使ってもらっている。	
			(外部評価) 入り口にかけてある表札は、法人代表者が入居した時期の季節の花や思い出の地のイラストを描き、手作りしている。入居当初、落ち着かない方の家族と相談し、ご主人の遺影と仏壇を持ち込んでもらい、毎日水やお花を供え手をあわせられるよう支援することで、じょじょに落ち着かれた方がいる。得意な手芸やぬり絵の作品を飾ったり、好きな演歌歌手のポスターを見ながらCDを聞いて楽しむ方がいる。日めくりを毎日めぐりたり、壁掛けカレンダーに今日の日付が分かるよう職員に目印を付けてもらい、出来事を日記風に記入している方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 分かりやすいように看板をつけたりしているが、現在に於いては、すでに生活に馴染まれている。	